

資料

日高山脈と夕張山地を 国立公園とする要望書

二〇〇六年一月三十日

環境大臣 小池百合子 様

北海道自然保護協会

会長 佐藤 謙

日高山脈と夕張山地を新たな国立公園に
指定する二つの要望書

北海道の日高山脈と夕張山地の主要部は、現在、日高山脈襟裳国立公園(昭和五十六年十月一日指定・公園面積十萬三千ha)および富良野別道立自然公園(昭和三十年四月十九日指定・公園面積三萬五千ha)に指定されています。その特徴(別記説明書参照)の要点は、①日本には類例のない特異な地史をもつ構造山地で、氷河地形や蛇紋岩メランジュ帯を含み、②固有種に富む高山植物群落や亜寒帯性森林が発達し、野生動物の生息環境としても優れ、③原始性が豊かで日本最大の原生流域(環境白書・平成十三年版)を包含するなど、わが国の風景を代表するとともに、世界的にも誇り得る傑出した自然の風景地です。

(別記説明書)

国立公園候補地としての日高山脈・夕張山地の特徴

国立公園として想定される区域は、現在の日高山脈襟裳国立公園(面積十萬三千ha)および富良野別道立自然公園(面積三萬五千ha)を中心におき、やや拡張した範囲を、また夕張山地は夕張岳・芦別岳・岬山を主体とする範囲(山麓のダムなどは除外)を想定することが望ましい。なお日高山脈と夕張山地は飛び地の関係となる。それらの国立公園候補地としての特徴と資質は、次の七点に集約することができる。

一 日本では類例のない特異な生い立ちと地形
日高山脈と夕張山地は、北海道の脊梁山脈の一部を構成する、標高千数百〜二千m級の構造山地で、火山地形の多い日本の国立公園の中で、日本を代表する非火山性の「構造山地連峰」の景観形式である。しかもその成立過程は、日本には類例のない特異な、プレートとの接近、衝突、隆起に起因している。

すなわち日高山脈は、白亜紀以降の北米プレートとユーラシアプレートの収束過程において、北米プレートの一部をなす島弧性プレート(北海道東部)が西方のユーラシアプレートとの間にあった海洋性プレート(北海道中部)に衝突、衝上したため、地下深部で高温・高圧のもとで変成・変形してきた島弧地殻岩石が隆起し、形成された。現在、日高山脈の東側から西側へ山脈に平行な帯状配列をしている、ホルンフェルス・片岩・片麻岩・シラニユライトなどの変成岩や、花崗岩・トー

な山岳や溪流は、登山などアウトドア活動や野外自然教育の利用に供されております。

とくに近年は「夕張岳の高山植物群落と蛇紋岩メランジュ帯」の天然記念物指定(文化庁、平成八年)、国有林経営が「国民の森林」として木材生産重視から公益的機能重視へ転換(平成十一年)、道有林経営の木材生産を目的とする皆伐・択伐の廃止(平成十二年)、主要道道静内中札内線(日高横断道路)の建設中止(北海道、北海道開発局、平成十五年)など、自然環境保全にとって有利な状況が生まれております。したがって国有林当局および道有林当局の理解と協力が得られるならば、ほぼ全域が特別保護地区と第一種特別地域からなる、事実上の「営造物公園」に相当する国立公園を実現できる可能性を秘めております。

このような特徴は、環境省が定めた「自然公園選定要領」の第一要件(景観)、第二要件(土地)、第三要件(産業)、第四要件(利用)のすべてにおいて、高い評価が得られる資質を有しております。北海道には、すでに阿寒、大雪山、支笏洞爺、知床、利尻礼文サロベツ、釧路湿原の六カ所の国立公園が指定されておりますが、自然公園選定要領によれば、国立公園は「第一乃至第四の要件を具備するものについては配置を考慮しない」、すなわち箇所数にこだわらず選定すべきこととされております。

さらにまた、IUCN(国際自然保護連合)のUnited Nations List of Protected Areas 2003によれば、日本の国立公園の大部分は私有地などを含む「地域制公園」の特性を反映して、カテゴリーVの景観保護地域に区分されておりますが、日高山脈と夕張山地は、想定される公園区域のほぼ全域

ナル岩・ハンレイ岩などの深成岩は、この島弧地殻(プレートの上部)の岩石である。その一方、山脈のさらに西側にはかつての海洋性プレート(地殻の岩石であるオンフォライトが見られ、島弧地殻岩石が日高主衝上断層にそってこの海洋地殻岩石のしあがっている。したがって、日高山脈を東から西に横断すると、かつての島弧地殻の浅部から地下二十五mを超える深部の岩石、さらに海洋地殻の岩石が観察できる。日高主衝上断層にそって、さらに深部のマントルの岩石(カンラン岩)が見られる。国の特別天然記念物に指定されている山脈南部のマホイ岳はこの地下一〇〇mを超える深部の岩石からなり、マントル研究から世界的に注目されている。

このように、地下深部にいたる島弧(大陸)地殻の岩石の存在状況や相互関係を、地表で観察できるところは、日高山脈のほか、アルプスのインリア帯やヒマラヤのコヒスタン帯などが知られるのみで、世界的にもきわめて貴重な研究・教育のフィールドである。

また新第三紀末から第四紀更新世にかけ、日高山脈の隆起が加速されたため浸食が激しくなっており、鋭い稜線と急峻な斜面、深い溪谷をもつ山岳地形が形成され、さらに更新世後期の複数回の氷期には、主脈の東側に一〇〇mを超えるカール(氷河地形)が発達し、日高山脈の山岳景観を特徴づけている。なお日高山脈の最南端は、約二万年前のマンモスの白歯化石で知られる襟裳岬の岩礁となつて海中に没し、特有の優れた海岸景観美を形成している。

一方の夕張山地は、前記の北米プレートとユーラシアプレートとの間にあった中生代の海洋性プ

が国・公有地で、地域住民の集落も存在しないため、カテゴリーIIの国立公園、すなわち、①現在と将来の世代に一つ以上の生態系を完全な状態で保護する、②その地域の指定目的に反する開発や居住を排除する、③環境と文化に調和した、精神的、科学的、教育的活動と、レクリエーションと観光客のための機会の基盤を提供する、という国際的な国立公園の定義に合致し、日本では数少ないカテゴリーII型の国立公園になり得るものと考えられます。

現在の日本の二十八カ所の国立公園はすべて二十世紀に指定されたものですが、国土の土地利用の実態を踏まえれば、二十一世紀に国立公園の量的拡大を図ることは、もはや困難になっております。そうした中で求められるのは、国立公園の質的な充実を図ることです。それは国立公園の観光開発を促進することではなく、自然公園法改正(平成十四年)で新しく国などの責務とされた「生物多様性の確保」にも大きく貢献できる、カテゴリーII型の実態を備える国立公園を少しでも多くすることです。日高山脈と夕張山地を新しい国立公園に指定することは、そうした観点からもきわめて意義の深いことと考えます。

したがって環境省は、林野庁、北海道との連携を密にして、国民や道民の意向も汲みながら、関係資料を収集して客観的に評価し、その上で日高山脈と夕張山地を国立公園候補地に選定し、中央環境審議会に諮問するなど、国立公園指定に向け特段のご尽力をくださるよう、要望いたします。なお林野庁長官および北海道知事に対しては、本要望書の写しを添え、別紙写しのとおり要望いたしましたので、申し添えます。

プレートの岩石が、プレート収束による東側からの圧力の影響を受けて隆起し、形成されたものである。海底火山に由来する枕状溶岩が芦別岳などの山体を形成し、夕張岳ではカンラン岩から変質した蛇紋岩が他の岩石塊をとりこんだメランジュ(起源の異なる岩塊の混合)をなし、それらが浸食から残り残されたノッカー地形をつくるなど、特異な山岳景観が特徴となっている(夕張岳の蛇紋岩メランジュ帯は高山植物群落とともに天然記念物指定の根拠とされた)。

以上のように日高山脈と夕張山地は、日本列島形成史の中でも特異な存在であり、その山岳は急峻、雄大で、しかも多数のカールが見られるなど、優れた山岳景観を有し、次に述べる植生景観、原始性などと併せ、日本の風景を代表するに足る傑出した自然の風景地である。

二 原始性の豊かな森林と固有種に富む高山植物など

日高山脈と夕張山地の植生は、大半が冷温帯から亜寒帯へかけての特徴を示すが、地形・地質の影響を受けて、この地域特有の生態系が成立している。

日高山脈は急峻な地形のため、とくに東側では雪崩の影響により針葉樹林が少なく、ダケカンバ林が優勢となっているのに対し、西側には針葉樹林がよく発達する。西側の針葉樹林のうちでも、とくに南部の幌満付近には温帯性のゴウマツ群落(国の天然記念物)、北部の沙流川源流域には亜寒帯性のエンマツ・トドマツ群落(国の天然記念物)が見られ、主稜線部はハイマツ帯となっている。それに対して夕張山地では、落葉広葉樹林、

針葉樹林、ダケカンバ林、ハイマツ帯の順序で植生の垂直的な帯状分布が認められる。いずれの山地でも植生の大部分が植生自然度九(自然林)〜一〇(自然草原)を示し、植林地は少なく、原始性が豊かである。

またカンラン岩や蛇紋岩の基盤を有する山域では、超塩基性岩植物に特徴づけられる高山植物群落が発達している。すなわち、日高山脈南部のアポイ岳では標高が八〇〇m程度と低いにもかかわらず、中腹から山麓にかけてアポイカンバ、ヒダカソウ、エゾコウゾリナなどの固有種に富む高山植物のお花畑(国の特別天然記念物)が見られ、夕張岳では、ユウバリソウ、ユウバリコザクラ、シシバキスミレ、ユキバヒゴタイなどの固有種(ユキバヒゴタイは夕張岳と日高山脈に限った固有種)を含むお花畑(国の天然記念物)が広がっている。さらに雌山では石灰岩植生が発達し、石灰岩植物のキリギソウ(固有種)やオオヒラウスユキソウなどが見られる。

ちなみに日高山脈と夕張山地の北海道固有植物(固有種・固有変種など)の数は、研究者により若干の相違があるが、日高山脈では二十三分類群、夕張山地では二十二分類群を数え、大雪山の十四分類群、知床の四分分類群と比較して、圧倒的に多い特徴がある。

このような険しい地形と自然性の豊かな植生に支えられ、日高山脈と夕張山地は野生動物にとっても優れた生息環境となっている。大型哺乳類では特別な固有種はないが、エゾヒグマやエゾシカの生息密度が高く、とくに日高山脈のカール付近などでは、エゾヒグマが出没することが稀ではない。またカールのモレーン(氷河作用で削られた

岩塊の丘)などは氷期の遺存種とされるエゾナキウサギの生息の場となっており、山頂部だけでなく中腹の森林地帯の岩場にもエゾナキウサギ(夕張岳では保護に留意すべき地域個体群)が生息している。その他、エゾクローン、キタキツネ、エゾオコシヨ、ホンドイタチなどの姿を見ることが出来る。

野鳥も森林や高山の植生を反映して豊かで、森林帯にはクマガエラ(国の天然記念物)をはじめ、エゾライチョウ、コマドリ、コノハズク、キクイタダキなど、また高山ではギンザンマンシコ、ホシガラスなどが見られる。昆虫では高山蝶として、グイセツタカネヒカザ(国の天然記念物)、カラフトトリシジミ(国の天然記念物)などが生息し、またヒメチャマタラセセリ(国の天然記念物)はアポイ岳が日本で唯一の隔離分布地となっている。なお襟裳岬では、ゼニガタアザラシ(絶滅危急種)を身近に観察することができる。

三 日本最大の原生流域

前記のように日高山脈と夕張山地は自然性の豊かな植生と野生動物に恵まれているが、それは「原生流域」の広さからも裏づけられる。原生流域とは、面積が千km以上になり、道路やダムなどの人工工作物および森林伐採などの人為的影響の見られない河川流域のことで、「環境白書」(平成十三年版)は全国の原生流域のベストテンを掲げている。その五位までを挙げると、①日高山脈襟裳国定公園・四七、八二〇km²、②大雪山国立公園・一六、九三〇km²、③白神山地自然環境保全地域・一二、六四八km²、④磐梯朝日国立公園・一二、五二〇km²、⑤越後三山只見国定公園・一〇、七六二

版)こととなった。

したがって日高山脈と夕張山地のほぼ全域は、事実上の特別保護地区と第一種特別地域に相当する、「普通物公園」に匹敵する、質の高い自然環境保全施策を実現できる潜在的可能性を有していることになる。

五 農林業など開発の可能性が少なく日高横断道路も建設中止

日高山脈と夕張山地は前記のように、ほぼ全域が国有林と道有林で積極的な木材生産が行われる予定はない。また国有林・道有林内には地域住民の集落がなく、国土利用計画法に基づく土地利用基本計画でも、当該地域は「森林地域」と「自然公園地域」の重複地域であり、「農業地域」は該当していない。したがって将来とも農地や草地の造成などが行われる見込みはなく、また宅地開発などの行われる可能性もない。

鉱業権の状況は未確認であるが、現在採掘中のところは幌満付近のカンラン岩採取がある程度で、その他の鉱種は、たとえ試掘権・採掘権の設定がなされていたとしても、採掘される可能性は低いものと思われる。

近年の日高山脈で行われていた最大の建設事業は、主要道静内中札内線(日高横断道路・静内町から日高山脈の主稜をトンネルで横断し中札内村に至る開発道路、北海道と北海道開発局が区域を分けて施工)で、昭和五十九年に着工されたが、自然保護の反対世論が盛り上がり、財政事情の悪化もあり、北海道知事は平成十五年に未完成のまま建設を断念し、北海道開発局長も同年、工事を中止した。工事区間は主稜線に予定されたトンネ

ル部分には及んでいない。

また夕張岳では、昭和六十年代のリゾートブームを背景に、大手観光デベロッパーにより大規模なスキー場開発が計画されたが、やはり自然保護世論の反対があつて計画が撤回され、さらに天然記念物指定を求める世論に押され、山頂部が国の天然記念物に指定(平成八年)された。

このように日高山脈と夕張山地は、各種の開発事業による自然破壊の恐れは少なく、自然環境保全施策を強力に進められる可能性をもっている。

六 登山の聖地で典型的なバックカントリー

日高山脈の大部分は、一般的な登山歩道の整備はなされておらず、アメリカの原始地域・バックカントリーに相当するような原始的地域が多い。そのため登山関係者からは「日高山脈は登山の聖地」として、崇められながら親しまれている。その一方、アポイ岳は一般的な登山ハイキングや自然観察会に適し、また最高峰の幌尻岳(二、〇五二m)は深田久弥の「日本百名山」のひとつであることから、多くの登山者が訪れている。

七 IUCNの国立公園定義に合致

そうした登山者などのため、幌尻山荘、ニイカッポロシリ山荘、ペテガリ山荘、神威山荘、楽古山荘、戸高別ヒュッチ、札内ヒュッチなどの(非営利的)山小屋が整備されており、また山麓周辺地域には、日高山脈館(日高町)、アポイ岳ビジターセンター(様似町)、日高山脈山岳センター(中札内村)、夕張市石炭博物館(夕張市)など、野外自然教育や情報提供施設が公的に整備されている。

また道有林も平成十三年に経営方針を根本転換し、「木材生産を目的とする皆伐・択伐を廃止し、……公益性を全面的に重視した道有林の整備を推進」する(「北海道森林づくり白書」・平成十四年

2010年(平成22年)10月5日(火曜日)

国立公園新たに5候補

環境省選定 道東湿地群など

環境省は4日、新たに指定・拡張すべき国立・国定公園の候補地を18地域を選定したと発表した。エコツアーリズムなどの流行で貴重な自然の利用が急増しているため、新たな

環境省は4日、新たに国立公園の指定候補地として慶良間諸島沿岸海域(沖縄県)など5地域を、国立公園の候補地として由良川・桂川の上中流域(京都府)を公表した。従来の選定では地形などが重視されてきたが、初めて生物の多様性を基準にした。関係自治体との調整はこれからになるが、環境省は「10年以内」に指定されている日高山脈は、

環境省は4日、新たに国立公園の指定候補地として慶良間諸島沿岸海域(沖縄県)など5地域を、国立公園の候補地として由良川・桂川の上中流域(京都府)を公表した。従来の選定では地形などが重視されてきたが、初めて生物の多様性を基準にした。関係自治体との調整はこれからになるが、環境省は「10年以内」に指定されている日高山脈は、

■新たな国立・国定公園候補地と理由

道東湿地群(北海道) タンチョウ、オオワシの渡来地

日高山脈・夕張山地(北海道) 植物やチョウに固有種

由良川・桂川の上中流域(京都府) 原生的なスギ林。希少な魚も生息

奄美群島(鹿児島県) アマミノクロウサギなど多くの固有種。亜熱帯林が国内最大規模

やんばる(沖縄県) ヤンバルクイナなど多くの固有種

慶良間諸島沿岸海域(沖縄県) サンゴが高密度に生息。ザトウクジラの繁殖海域

国立・国定公園 6候補地を発表

生物多様性、基準に

環境省は4日、新たな国立公園の指定候補地として慶良間諸島沿岸海域(沖縄県)など5地域を、国立公園の候補地として由良川・桂川の上中流域(京都府)を公表した。従来の選定では地形などが重視されてきたが、初めて生物の多様性を基準にした。関係自治体との調整はこれからになるが、環境省は「10年以内」に指定されている日高山脈は、

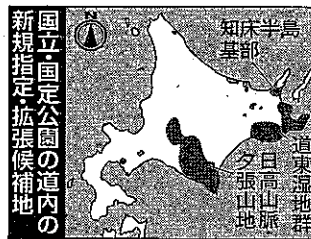
環境省は4日、新たな国立公園の指定候補地として慶良間諸島沿岸海域(沖縄県)など5地域を、国立公園の候補地として由良川・桂川の上中流域(京都府)を公表した。従来の選定では地形などが重視されてきたが、初めて生物の多様性を基準にした。関係自治体との調整はこれからになるが、環境省は「10年以内」に指定されている日高山脈は、

環境省は4日、新たな国立公園の指定候補地として慶良間諸島沿岸海域(沖縄県)など5地域を、国立公園の候補地として由良川・桂川の上中流域(京都府)を公表した。従来の選定では地形などが重視されてきたが、初めて生物の多様性を基準にした。関係自治体との調整はこれからになるが、環境省は「10年以内」に指定されている日高山脈は、

道内3カ所が候補

国立・国定公園の指定・拡張

日高山脈・夕張山地 知床半島基部 道東湿地群



環境省は4日、国立・国定公園の指定状況として全国18カ所を公表した。道内では、国立・国定公園の新規指定、また拡張候補に、日高山脈・夕張山地、知床半島基部、道東湿地群の3カ所が選ばれた。いづれも動植物に希少種や固有種などがみられ、「傑出性の高い地域」と評価している。

環境省は重要な生態系などを保全する観点から、全国の335地域をピックアップ。さらに①国立・国定公園に含まれず保護体制ができていない②貴重な固有種が集中している③などを基準とし、絞り込んだ。

環境省は重要な生態系などを保全する観点から、全国の335地域をピックアップ。さらに①国立・国定公園に含まれず保護体制ができていない②貴重な固有種が集中している③などを基準とし、絞り込んだ。